



「和牛を飼って思う」



肉用牛経営：

阿賀野市布目 水野 芳男氏

私の家では長男夫婦が水田約10ha、そして冬期間にチューリップの切花を、妻が水田転作地等に野菜作りをし、学校給食センター、ふれあい野菜売り場、新潟市の商人等に出荷しております。私は昭和58年、当時の安田町農協（現在：北蒲原みなみ農協安田支店）の婦人導入牛を飼養して以来、牛の主な管理は私の担当になっております。現在は繁殖母牛10頭を飼っています。事業開始の導入当時は30人の飼育農家がありました。一人一頭から一人三頭にしようと頑張ってきましたが、飼育農家の高齢化等により、現在は10名となりました。畜産協会の今井先生、北蒲みなみ農協の畜産担当の高山さん等の指導を受け、安心・安全な肉用素牛の生産を目指しております。

「良い子牛は清潔な牛舎で良質な粗飼料の十分な給与が大切である」と聞き良質な粗飼料の確保に努力しなければならないと考えております。そして肥育農家に喜んでもらえる素牛作りしたいと思っております。

現在の日本農業を考える時、日本の食糧自給率の向上を願うものでありますが、近々FTA交渉が日豪首脳でされるとの事です。生産基盤の大きく異なる農業大国との交渉ごとは基盤の弱い日本農業が太刀打ちができるものでないとの認識の上で日本農業を守って頂きたいと願うものであります。

牛から「元気」をもらいながら和牛繁殖牛の里作りと牛飼いに励む所存でありますので今後も関係各位のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

「豚とともに」



養豚経営：

十日町市姿 田中 勤氏

父は水稻と畑作を営む耕種農家であったが、子供のころこの周辺ではどこの家でも家畜が飼われていて我が家にも数頭の豚がいた。小学生のころから豚舎の掃除をよくさせられた。田んぼや畑の仕事もよく手伝った方だと思っているが、私にとって豚の仕事は楽しかったことを記憶しており、将来この仕事がしたいと思った。高校3年生の時に近くの荒地を借りて肉豚の放飼もやってみた。高校を卒業し後継者育成資金等を借りて我が家から1km離れた畑に60坪弱の豚舎を建て母豚10頭程の一貫経営をスタートさせた。2年後にまた借金をして2棟増設し母豚50頭の一貫経営が出来る豚舎を建てた。父から資金援助はしてもらわなかったが、私のしたい事を許してもらっていたし、何よりも食べさせてもらっていた事に感謝している。あれから30数年の年月が過ぎ、私の養豚経営から我が家の養豚経営に替わり我が社の養豚になった。母豚は160頭程度になり今年度は3,300頭位の肉豚が出荷できるかなと思っている。時の流れは最近特に早く、世の中の変化は大きすぎると感じている。私の3年間高校の担任であった恩師が、当時の私達に教えてくれた言葉である「停滞は相対的な後退である」を私自身以来ずっと座右の銘としてきた。五泉在住の恩師もあの頃20歳台であられたが、数年前に退職され現在なお多忙の日々を送られているとのことである。

今回日本農業賞集團の部で私達妻有畜産グループが新潟県代表に選ばれた。養豚グループが集團の部で県代表になったのはめずらしいのではないかとと思う。グループ設立以来22年間の活動が評価された事に大きな喜びを感じているし、地元紙が一斉にこの事を称え活動内容を広く知らしめてくれた事を感謝している。養豚農家として「安全で安心な美味しい豚肉」を今後とも消費者に提供して行きたいし、養豚というすばらしい産業がより発展するよう願っている。